

Journal of Toxicologic Pathology

オンラインISSN : 1881-915X

印刷ISSN : 0914-9198

ISSN-L : 0914-9198

[資料トップ](#) [早期公開](#) [巻号一覧](#) [この資料について](#)

34 巻, 1 号

選択された号の論文の16件中1~16を表示しています

簡潔なレビュー

ラットの下垂体遠位部の増殖性病変の組織病理学および免疫組織化学的特徴

Takuya Doi, Takeshi Kanno, Junko Sato

2021 年 34 巻 1 号 p. 1-9

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/09/12

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0050>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

遠位部の内分泌細胞に由来する下垂体増殖性病変が頻繁に発生し、腺腫/発がん性は、さまざまなラット系統、特に Sprague-Dawley を使用した標準的な2年間の発がん性研究における一般的な死因です。このレポートでは、ラットの遠位部に由来する下垂体腫瘍の免疫組織化学的特徴について説明します。プロラクチン (PRL) を含む腫瘍が最も一般的であり、PRL / 成長ホルモン (GH) の二重陽性腫瘍塊 (PRL / GH 共陽性腫瘍塊) は、PRL 陽性腫瘍塊 (PRL 単一陽性腫瘍) よりも多く見られます。大衆)。GH を含む腫瘍は比較的多く、これらの多くは PRL / GH 共陽性腫瘍塊でもあります。TSH を含む腫瘍は女性によく見られます。

[PDF形式でダウンロード \(5870K\)](#)

原著

ゲンタマイシンを放出する分解性ポリマーの適用による Sprague-Dawley ラットの汚染された橈骨骨折の治療

Yuval Ramot, Michal Steiner, Netanel Amoyal, Yossi Lavie, Guy Klaiman...

2021 年 34 巻 1 号 p. 11-22

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/08/31

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0041>

ジャーナル オープンアクセス

電子付録

抄録を非表示にする

骨折関連の感染症は、依然として罹患率と死亡率の主要な原因です。20%w/wゲンタマイシンを含む生分解性ポリマーポリ(セバシン酸-co-リシノール酸) [p(SA-RA)]の有効性を評価するために、単純な汚染された橈骨骨切り術モデルを確立することを目的としました。片側横骨切り術がSprague-Dawley (SD) ラットに誘発され、続いて黄色ブドウ球菌が適用されました。骨折の上のサスペンション。汚染された開放骨折モデルの確立に成功した後、ラットを全身(腹腔内セフトキシム)、ゲンタマイシンを含むp(SA-RA)、またはその両方で局所的に治療しました。対照群には、非汚染群と、未処理またはポリマーのみで処理された汚染群が含まれていました。4週間後、骨はマイクロCTスキャンと微生物学および組織病理学的評価を受けました。マイクロCT分析により、汚染されていない対照群と同様に、局所治療と全身治療の両方を受けた群で同様の変化が明らかになりました。局所治療と全身治療の両方を受けたグループのほとんどの動物で検出可能な細菌増殖の欠如が認められ、すべてのサンプルは陰性でした。黄色ブドウ球菌。組織病理学的評価により、抗生物質を含むすべての治療法が、感染を減らし、カルス修復を促進するのに非常に効果的であり、早期の骨治癒をもたらすことが明らかになりました。ゲンタマイシン治療を含むp(SA-RA)はセフトキシムよりも優れた結果を示しましたが、局所治療と全身治療の組み合わせは、このモデルで最高の治療可能性を示しました。

PDF形式でダウンロード (8431K)

2歳のオスとメスのF344のバックグラウンドデータのGPTデルタラット

Kohei Matsushita, Yuji Ishii, Aki Kijima, Shinji Takasu, Ken Kuroda, H ...

2021年 34巻 1号 p. 23-31

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/10/03

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0060>

ジャーナル オープンアクセス

電子付録

抄録を非表示にする

が、GPTデルタラット、レポーター遺伝子トランスジェニックラットと、もともとのために開発された*in vivo*での突然変異試験、彼らはまた、化学発がんと包括的な毒性を評価するために使用されています。したがって、*gpt*デルタラットの発がん性と一般毒性に関するバックグラウンドデータを蓄積する必要があります。ここでは、110週齢のオスとメスのF344のバックグラウンドデータ調査のGPTデルタラット及び野生型ラットを。実験中、動物の生存率と体重に対するレポーター遺伝子のトランスフェクションの影響はありませんでした。男性の*gpt*の相対的な重みデルタラットの副腎は、おそらく褐色細胞腫の発生率が高いために、野生型ラットよりも有意に高かった。慢性進行性腎症および肝臓の細胞変化の焦点を含む、両性の非腫瘍性病変の発生率に遺伝子型間の差異はなく、両方の遺伝子型でより高い発生率を示した。さらに、男性の*gpt*における副腎褐色細胞腫の発生率が有意に高い両方の遺伝子型で前腫瘍性(オスとメス)と腫瘍性(メス)の副腎病変の発生率に差がないため、野生型ラットよりもデルタラットは偶発的である可能性が高い。両性の他の腫瘍性病変は発生率に遺伝子型間差を示さなかったが、脾臓の大顆粒リンパ球性

白血病および男性の精巣のレイディグ細胞腫瘍はより高い発生率を示した。全体として、F344 *gpt*デルタラットの自然病変のスペクトルに対するレポーター遺伝子トランスフェクションの影響はなく、化学毒性と発がん性の評価におけるそれらの適用性を裏付けています。

[PDF形式でダウンロード \(3033K\)](#)

高鉄食餌を与えられたラットにおける出血素因の分析

Yohei Inai, Takeshi Izawa, Mutsuki Mori, Machi Atarashi, Seiichirou Ts ...

2021年 34巻 1号 p. 33-41

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/10/24

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0004>

ジャーナル オープンアクセス

電子付録

抄録を非表示にする

鉄過剰症は、酸化剤を介した細胞/組織の損傷を引き起こすことがよく認識されています。しかし、血液凝固系に対する鉄過剰の影響についてはほとんど知られていません。鉄修飾食を使用した一連の研究で、高鉄食を与えられたラットで予期しない出血傾向に遭遇しました。この研究では、ラットの食餌性鉄過剰症によって誘発される出血性素因のメカニズムを調査しました。6週齢のF344 / DuCrIcrIj雄ラットに、標準（0.02%鉄を含む）または高鉄食（1%鉄を含む）を6週間与えた後、血液学的、血液生化学的、凝固、および病理学的検査のためにサンプリングしました。高鉄食を与えられたラット（Fe群）では血清および肝臓の鉄レベルが上昇し、血清トランスフェリンは鉄でほぼ飽和していました。しかし、血清トランスアミンナーゼレベルは増加しませんでした。さらに、血漿プロトロンビン時間および活性化部分トロンボプラスチン時間は、出血の存在に関係なく、有意に延長された。凝固因子IIおよびVII（ビタミンK依存性凝固因子）の活性は有意に低下しましたが、第VIII因子の活性は変化しませんでした。血小板レベルは、食事による鉄過剰の影響を受けませんでした。これは、鉄過剰ラットの出血傾向が二次止血障害によって引き起こされていることを示唆しています。さらに、0.8%を超える鉄を含む食餌を与えられたラットの複数の臓器で出血が観察されました。

[PDF形式でダウンロード \(2317K\)](#)

オスのフィッシャーラットにおける4つの異なる酸化ニッケルナノ粒子の気管内注入によって誘発された肺の炎症の経時的比較

Toshio Kobayashi, Yutaka Oshima, Yasuhiro Tsubokura, Takako Muroi, Sho ...

2021年 34巻 1号 p. 43-55

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/11/12

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0066>

ジャーナル オープンアクセス

電子付録

抄録を非表示にする

酸化ニッケル (NiO) への職業ばく露は、気道がんの重要な原因です。毒性は、解離した成分、すなわちニッケル (II) イオンに関連していることが知られています。NiOの人工リソソーム液への溶解度を含む物理化学的特性と肺反応の経時変化との関係に対処するために、4つの異なる特徴のあるNiO製品US3352 (NiO A)、NovaWireNiO1 (NiO B)、I小粒子 (NiO C)、および637130 (NiO D)。NiOを精製水に懸濁し、0 (ビヒクル対照)、0.67、2、および6 mg / kg体重で雄のF344ラット (12週齢) に気管内に1回点眼した。動物は3、28日目に安楽死させた。または点滴注入後91、血液分析、気管支肺胞洗浄液 (BALF) 検査、および組織病理学的検査が実施されました。最も溶解性の高い生成物であるNiOBは、最も重篤な全身毒性を引き起こし、高い死亡率をもたらしましたが、反応は一過性であり、生存している動物は回復しました。2番目に溶解性の高い物質であるNiODと3番目のNiOAは、明らかな肺の炎症を引き起こし、コラーゲンの増殖とともに少なくとも91日間反応が持続しました。対照的に、NiO CはBALF検査でほとんど検出できない炎症を誘発し、組織病理学に顕著な変化は認められなかった。これらの結果は、NiO製品の初期段階の毒性の可能性を示していますが、肺の炎症の持続性は示していません。

[PDF形式でダウンロード \(4667K\)](#)

F344ラットにおける多層カーボンナノチューブと比較した蒸気成長炭素繊維の肺毒性

Takamasa Numano, Taiki Sugiyama, Mayumi Kawabe, Yukinori Mera, Ryoji O ...

2021年 34巻 1号 p. 57-71

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/11/20

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0064>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

炭素繊維は、優れた物理化学的および電気的特性を備えています。蒸気成長炭素繊維は、高アスペクト比の多層炭素管構造を持つ炭素繊維の一種です。代表的な気相成長炭素繊維、VGCFTM-Hは、極めて強力で安定であり、優れた熱および電気伝導性を有します。一部の高アスペクト比の多層カーボンナノチューブ (MWCNT) は、げっ歯類の肺に毒性および発がん性の影響を与えることが報告されているため、MWCNTの1つと比較してVGCFTM-Hを使用して13週間の肺毒性試験を実施しました。、MWNT-7、ラット。男性と女性のF344ラットに気管内投与したVGCFTM-0.2、0.4、および0.8 mg / kg体重のH、または0.4および0.8 mg / kg体重のMWNT-7を週1回、8週間、その後13週まで無治療。肺負担がVGCFで同等であったTM-H及びMWNT-7基; しかし、肺重量は増加し、気管支肺胞洗浄液の炎症性および生化学的パラメータと、炎症性細胞浸潤、肺胞II型細胞増殖、肺胞線維症、胸膜線維症、肺中皮増殖、および横隔膜線維症を含む組織病理学的パラメータが増加しました。VGCFで穏やかなTM-MWNT-7グループよりもHグループ。さらに、内臓および胸膜中皮の増殖細胞核抗原 (PCNA) 陽性指数は、対照よりもMWNT-7群で有意に高かったが、VGCFTM-H群ではそうではなかった。したがって、この研究の結果は、VGCFTM-Hの肺および胸膜毒性がMWNT-7のものよりも小さかったことを示しています。

[PDF形式でダウンロード \(2653K\)](#)

AMPK-mTOR-ULK1を介したオートファジーは、ラットのp21を阻害することにより、四塩化炭素によって誘発される急性肝不全を保護します

Qiwen Wang, Weixia Liu, Gaopeng Liu, Pan Li, Xueqiang Guo, Chunyan Zha ...

2021年 34巻 1号 p. 73-82

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2021/01/05

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0022>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

オートファジーは、真核細胞におけるリソソーム依存性の分解経路です。最近の研究では、オートファジーが肝星細胞 (HSC) の活性化と、四塩化炭素 (CCl₄) の長期曝露中の肝臓の線維形成を促進する可能性があることが報告されています。ただし、CCl₄誘発急性肝不全 (AHF) におけるオートファジーの役割についてはほとんど知られていません。オートファジーの変調がCCl₄の影響を与えることができるかどうかを識別することを目的としたこの研究は、AHFを誘発してのCCl₄によって媒介上流のシグナル伝達経路を評価する4ラットにおける誘発オートファジー。急性肝傷害はCCl₄によって誘導された後、内因性LC3-IIの特定の点状分布の蓄積は、LC3-II、ATG5、及びAtg7遺伝子/タンパク質の発現を増加させ、及びP62遺伝子の発現の減少が観察された4ことCCl₄を示し、ラットにおいて4は高レベルのオートファジーをもたらしました。さらに、クロロキン (CQ、オートファジー阻害剤) を使用することによるオートファジー機能の喪失は、肝機能を悪化させ、CCl₄処理ラットにおけるp21 (サイクリン依存性キナーゼ阻害剤) の発現の増加をもたらしました。さらに、AMPK-mTORC1-ULK1軸はCCl₄で機能を果たすことが見出された4誘発されたオートファジー。これらの結果は、AMPK-mTORC1-ULK1シグナル伝達誘導性オートファジーはCCl₄において保護的役割があることを明らか4のp21経路を阻害することによって誘発肝毒性を。この研究は、改善のCCl₄を目的とした有用な戦略を示唆4オートファジーによって誘発性急性肝毒性を。

[PDF形式でダウンロード \(7519K\)](#)

コモンマーモセットの進行性糸球体腎症におけるネフリン発現の形態学的分析

Naoaki Yamada, Takuya Doi, Junko Sato, Takeshi Inoue, Minoru Tsuchitan ...

2021年 34巻 1号 p. 83-88

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/11/21

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0056>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

この研究では、足細胞のスリット横隔膜内の重要な分子の1つであるネフリンに焦点を当てました。これは、ヒトとラットでの発現が報告されているものの、コモンマーモセットでの存在は報告されていないためです。コモンマーモセットにおける自然発生的な進行性糸球体腎症の発症に応じて、ネフリンの発現と糸球体の変化を調査しました。2~10歳の19のコモンマーモセットが評価されました。腎臓は、ヘマトキシリンおよびエオシンを用いた顕微鏡検査およびネフリンの免疫組織化学的染色によって検査された。病変は、以前に報告された腎病変の等級付けシステムに従って、3つの等級に分類されました。ネフリン陽性領域は形態計測分析によって測定されました、そしてネフリン陽性率を計算した。ネフリン発現は、腎病変グレード0~2では連続線形パターンで糸球体毛細血管ループに沿って観察され、グレード3では不連続線形または粗粒パターンで観察されました。ネフリン発現は腎病変のグレードに応じて有意に減少する傾向がありました。ネフリン発現の変化は、腎病変の進行に重要な役割を果たすことが示唆されています。

[PDF形式でダウンロード \(1023K\)](#)

多形性平滑筋肉腫の患者由来異種移植マウスモデルの確立

Yasuhiro Shimada, Tomoharu Naito, Takuo Hayashi, Tsuyoshi Saito, Yoshi ...

2021年 34巻 1号 p. 89-93

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/12/12

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0061>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

軟部肉腫は、特定の標的の候補薬が現在不足しているため、化学療法を使用して治療することは困難です。候補化合物のスクリーニングと肉腫の治療標的の分析は、その有効性を正確に評価するための適切なヒト肉腫動物モデルの欠如、および患者由来の肉腫標本の効率的な移植と生着のための適切な技術プロトコルの欠如を考えると不十分です。異種移植 (PDX) モデル。したがって、この研究では、肉腫の最適なタイプを特定し、PDXモデルを生成するためのプロトコルを開発しようとしてきました。組織病理学および免疫組織化学的分析を使用してPDXマウスモデルの特性を明らかにし、ヒト肉腫と同様の病理学的特徴を示すかどうかを判断しました。移植された10個の肉腫標本のうちの1個の生着を達成し、その異種移植腫瘍は大量の増殖を示した。組織学的には、移植された肉腫病巣は多形性平滑筋肉腫の原発腫瘍に類似しており、すべての継代でそれらの組織学的構造を維持していた。さらに、免疫組織化学的分析により、平滑筋肉への分化の特定のマーカーの発現が明らかになり、これは平滑筋肉腫の特徴と一致している。

[PDF形式でダウンロード \(2344K\)](#)

症例報告

オスのウィスターラット神経膠芽腫モデルにおける肺転移の症例報告

Jing Zhou, Xuejing Shi, Yaocheng Li, Shulan Hao, Zhi Guo, Fupeng Zhang ...

2021年 34巻 1号 p. 95-99

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/12/19

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0034>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

膠芽腫 (GBM) は、非常に攻撃的な中枢神経系のがんです。その頭蓋外転移は、過去数十年でめったに報告されていません。さらに、頭蓋外GBM転移の病因は不明なままです。ここでは、C6GBMモデルのオスのウィスターラットにおける肺転移の症例を報告します。この報告されたウィスター雄ラットは、C6GBM細胞の同所性移植を除いて他の介入なしの実験対照群の1つでした。術後15日目に、この研究で報告された動物は、脳 (Ki67、約65.7%) および肺 (Ki67、49.5%) に核異型を伴う高度に細胞性の多形性腫瘍を示しました。肺の腫瘍細胞はグリア線維性酸性タンパク質に対して免疫反応性を示した。炎症性CD68⁺細胞浸潤、弱陽性のE-カドヘリン、およびビメンチンの強陽性の染色が、脳と肺の両方の腫瘍で観察されました。さらなる形態素解析に基づいて、肺への潜在的な転移経路は血行性転移である可能性があると推測します。

[PDF形式でダウンロード \(6826K\)](#)

対照C57BL / 6マウスのリンパ節における互いにかみ合う樹状細胞過形成症例の特徴

Elodie Rouillé, Héloïse Bilbault, Clément Levin, Stéphane Lezmi

2021年 34巻 1号 p. 101-106

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/12/05

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0039>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

交互嵌合樹状細胞 (IDC) 過形成は、マウスのリンパ節で時折観察される良性の自発的状態と見なされます。それはめったに報告されておらず、私たちの知る限り、免疫組織化学を使用して特徴付けられたことはありません。本研究では、16週齢の対照雌C57BL / 6マウスのリンパ節における自発的IDC過形成の症例について説明します。顕微鏡的には、リンパ節の構造は、小柱混合リンパ球浸潤を形成する豊富な淡い細胞質を伴う好酸球性紡錘細胞の増殖によって完全に無効にされた。紡錘細胞集団はF4 / 80に陽性であり、S100カルシウム結合タンパク質A4 (S100A4) に部分的に陽性であり、E-カドヘリンにわずかに陽性でした。α-平滑筋アクチン (SMA) とサイトケラチンは陰性です。リンパ球はCD3、CD4、CD20に対して陽性であり、CD8に対して陰性でした。紡錘細胞は、免疫組織化学 (IHC) の結果に基づいて、骨髄系に由来すると考えられていましたが、正確な起源は不明なままです (IDCまたはマクロファージ)。マクロファージの起源がF4 / 80陽性に基づいている可能性が最も高い場合でも、これは他のマーカーを使用してさらに明確にする必要があります。

PDF形式でダウンロード (3513K)

波状メダカ (*Oryzias latipes*) の浮き袋腫瘍

Satoshi Furukawa, Yumiko Hoshikawa, Kota Irie, Yusuke Kuroda, Kazuya T ...

2021年 34巻 1号 p. 107-111

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/10/30

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0058>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

浮き袋の腫瘍は、約2歳の波状のメダカ28頭のうち3頭で検出され、そのすべてが脊椎の湾曲によって引き起こされた異常な水泳パターンを示しました。腫瘍は背側腹腔に位置していた。浮き袋の内腔は、元々位置していると想定されていた領域では検出されず、その領域は脂肪組織に置き換えられました。腫瘍は、高分化型で密集したガス腺上皮様細胞の均質な集団からなる、非侵襲的で拡張性のあるカプセル化された固形塊でした。腫瘍塊は奇網につながっていたが、腫瘍細胞はそれらに浸潤しなかった。組織病理学的に、これらの腫瘍は、浮袋のガス腺上皮に由来する腺腫と診断されました。メダカでは自然浮袋腫瘍はまれで、発生率は0.02%です。しかし、波状のめだかに関する現在の研究では、発生率ははるかに高かった (10.7%)。脊椎湾曲の二次的影響と考えられる浮き袋の変形によって引き起こされるガス腺への長期的な物理的影響は、波状メダカのガス腺上皮の増殖の重要な要因である可能性があり、その結果、水泳の発生率が高くなります膀胱腫瘍。

[PDF形式でダウンロード \(4792K\)](#)

F344ラットの小腸の神経筋および血管過誤腫

Takanori Yamada, Takeshi Toyoda, Tetsuya Ide, Kohei Matsushita, Tomomi ...

2021年34巻1号 p. 113-117

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/11/17

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0059>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

110週齢の雄F344ラットの空腸と回腸の境界領域に腸腫瘤が発見された。組織病理学的には、腫瘤は内腔に突き出ており、腸上皮で覆われており、正常な構造を示していました。病変は粘膜下組織に位置し、疎性結合組織、平滑筋、散在する神経節細胞、およびさまざまなサイズの血管で構成されていました。これらの成分は不規則で無秩序な構造を示しましたが、細胞異型、増殖活性の増加、または隣接組織への浸潤性増殖は検出されませんでした。免疫組織化学的分析により、平滑筋、神経節、および内皮細胞は、それぞれ、 α -平滑筋アクチンおよびビメンチン、S-100、ならびにCD34およびフォンウィルブランド因子に対して陽性であることが明らかになった。これらの細胞の成熟を示します。したがって、腫瘤は小腸の神経筋および血管過誤腫と診断された。私たちの知る限り、これはげっ歯類におけるこの種の病変の最初の報告です。

[PDF形式でダウンロード \(1921K\)](#)

Wistarラットの自然発生軟骨肉腫：症例報告

Seema Balani, Mohmad Sadik Mulla, Vijayakumar Subramanian, Jomy Jose, ...

2021年34巻1号 p. 119-122

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2021/01/05

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0031>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

ラットでは、軟骨肉腫は自然発生的および化学的誘導に続発する両方で発生することが報告されています。まれに、若いオスのウィスターラットの変形した大腿骨に自然発生的な軟骨肉腫が確認されました。大腿骨と膝関節の肉眼的検査の後、組織を収集して保存しました。ホルマリン固定組織を脱灰し、パラフィンに包埋し、切片化し、ヘマトキシリンおよびエオシンで染色した。顕微鏡検査は、増殖性軟骨細胞が浸潤性成長パターンで骨および周囲の組織に侵入する、大腿骨における軟骨細胞または軟骨芽細胞起源の大きく、高度に増殖性の、カプセル化されていない成長を明らかにした。その組織形態学的特徴に基づいて、

[PDF形式でダウンロード \(3444K\)](#)

若いICRマウスにおける自然発生的な卵巣絨毛癌

Mao Mizukawa, Hiroko Sato, Satomi Nishikawa, Akane Kashimura, Hironobu ...

2021 年 34 卷 1 号 p. 123-125

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/11/15

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0062>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

この論文では、若い雌のCrI : CD1 (ICR) マウスで観察された自然発生的な卵巣絨毛癌について説明します。化合物を2週間経口投与した後、8週齢でマウスを犠牲にした。左卵巣は、暗赤色の出血を伴って嚢胞状に拡大していることがわかった。嚢胞性腫瘍には、豊富な血漿と赤血球が含まれていました。腫瘍の周辺領域では、奇妙な形の核を持つ大きな多形性腫瘍細胞が検出されました。腫瘍細胞は単一の大きな核と豊富な好酸球性から両親媒性の細胞質を含んでいた。腫瘍細胞の組織病理学は、栄養膜巨細胞の組織病理学に類似していた。したがって、観察された卵巣病変は絨毛癌と診断された。右卵巣または他の生殖器官に顕微鏡的病変は観察されなかった。卵巣絨毛癌は妊娠以外の起源であると考えられていました。これは、若いICRマウスにおける卵巣絨毛癌の最初の報告です。

[PDF形式でダウンロード \(1672K\)](#)

短いコミュニケーション

銅欠乏症誘発ラット心筋症におけるメッシュ状の血管変化

Rina Yamane, Makoto Tanaka, Nao Kikugawa, Hideki Yasui, Kenta Takei, M ...

2021 年 34 卷 1 号 p. 127-133

発行日: 2021年

公開日: 2021/02/09

[早期公開] 公開日: 2020/10/05

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2020-0029>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

銅欠乏症 (COD) の病理学的影響はよく知られています。ただし、CODに起因する心筋症の病因は不明であります。この研究では、組織病理学、免疫組織化学、および走査型および透過型電子顕微鏡を使用して、銅欠乏ラットの心臓血管系の形態を調べることで、COD誘発性心筋症の病因を解明することを目的とした。心筋と間質で検出された変化は、CODで報告された変化と一致していました。形態学的変化には、COD誘発性心筋症の新しい発見であると思われる毛細血管内皮細胞のメッシュ状の変化が含まれていました。これらの変化は、基底膜の損傷後の異常な血管リモデリングと、心筋収縮の機械的影響に起因すると仮定されています。心筋症はこれらの病変から生じる微小循環障害に関連している可能性があります。心筋症の病因と疾患の進行に対するこれらの病変の寄与との因果関係を実証するには、さらなる調査が必要です。

[PDF形式でダウンロード \(3670K\)](#)

Google translation / AEC trial